

第4学年白組 国語科学習指導案

学習指導者 増井泰弘

- 1 日時 2月3日(水) 5校時 13:55～14:40
- 2 単元名 人物の気持ちのうつり変わりを考えよう「ごんぎつね」
- 3 単元について

(1) 本単元と学習指導要領との関わり

<目標> (小学校学習指導要領から抜粋)

(3) 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。

<内容「C 読むこと」>

- (1) 読むことの能力を育てるため、次の事項について指導する。
 - ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。
 - イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。
 - ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。
 - エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。
 - オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。
 - カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。
- (2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。
 - ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。
 - エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。
 - オ 必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。

本教材は、優れた情景描写と細やかで素朴な語り口調の心理描写によって児童でも、物語世界や心情をつかみやすい作品である。児童は、一人の読み手として、ごんの視点に立ったり、兵十の視点に立ったりしながら登場人物の心情や心の揺れ動き、場面の移り変わりを読んでいく。ひとりぼっちの小ぎつねのごんが、かつて自分が困らせた兵十と心を通わせようと努力しながらも通わせきれない切なさを描いた作品である。ごんは、改心に気づいてもらえず、つぐない続けた兵十の銃弾に倒れ、死の間際に始めて本当の心が伝わったことを知る。伝わったときにはもう取り返しのつかない結末を迎えている二人の悲しさが胸に迫り、わかり合うことの難しさとそれゆえの喜び悲しみを深く訴えている。こうした「ごんぎつね」の主題に迫るために、一つ一つの言葉を大切に読み進め、ごんと兵十の心情、気持ちの変化を豊かに想像できるよう学習を進めていきたい。また、新美南吉の他の作品を読み広げることで、この作家の優れた描写や表現の工夫に触れ、情趣あふれる物語を味わう感性を伸ばす活動にもつなげていきたい。

- (2) 朝の10分間読書、今月の詩の音読・暗唱、学期に数回行われるペア読書や20分間読書、一年時より継続して行っている音読カードを活用した音読。こうした取り組みにより、本学級の児童は、読書への関心が高く、多くの本に親しんでいる姿が見られる。その結果、ほとんどの児童が国語の学習に対して意欲的に取り組み、落ち着いた雰囲気の中で学習が行われている。しかし国語の学習に対して苦手意識のある児童もおり、内容の読み取りや登場人物の心情に迫るといった学習に対して、解決の糸口を見つけられずに立ち止まってしまったり、学び合いのための自分の考えが持てずに、主体的に学習を進めることができにくい児童もいる。自分の考えに自身を持てず、発表することに消極的になっている児童も少なくない。そこで、ペアを中心とした学び合い学習や電子黒板を中心としたICT機器を効果的に活用し、すべての児童が、わかる授業をめざしたい。
- (3) 本校は、昨年度より、各学年にICT機器としてPC、プロジェクタ、実物投影機、プロジェクタカート、マグネットスクリーンを配備し、ICT機器の授業での日常的な活用を進めてきた。平成21年度においては、電子黒板を活用した教育に関する調査研究指定

校として、電子黒板機能付きデジタルテレビ（プラズマ型電子情報ボード）が各普通教室に設置（H22.1）され、実践研究を進めている。

なお、ICT機器の活用、電子黒板やデジタルコンテンツを活用するにあたり、その意図とICT活用の効果として以下の4分類を参考に実践を行っている。

ICT活用の効果の4分類(電子黒板が作る学びの未来 中川・寺嶋 H20.4)

<p>1) 理解の補完・知識の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかなか体験できないことの補完 ・繰り返し練習することでの知識の定着 ①拡大提示による焦点化 	<p>3) 学びの補完</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技能習得のための理解の促進 ・うまくいくポイントの把握 ・実験の手順の確認
<p>2) イメージや意欲の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ①見ることで想像力を刺激 ②登場人物への同化 ・実際体験への意欲の喚起 	<p>4) 視覚化による思考の深化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一度に閲覧することによる共有化 ・見ることで生ずるさまざまな疑問の喚起 ・学習課題に収束するようなきっかけ提示

本単元では、光村「国語デジタル教科書」を活用して学習を行う。プロジェクタをはじめとするICT機器・電子黒板等の整備が進む中、教師の提示用として、あるいは児童の個々の学習活動用として、普通教室で日常的に活用できるデジタルコンテンツとしてのデジタル教科書は、その効果が大変期待されているものである。教科書紙面をそのまま画面に投影する。大きく映し出すことで、児童は、学習している箇所に集中できる。教材に収録されている朗読を活用することにより、何度でも同じ箇所を聞いたり、音読の練習をしたりする。また、様々なツール、書き込み機能が用意されており、マーカーで文字を塗りつぶしたり、吹き出しを入れたり、書き込んだり、印刷してワークシートを作成することも可能である。簡単な操作で、教科書の挿絵が大きく拡大提示できるといった点も大変魅力的である。挿絵の一部分の拡大も可能である。話の内容に合わせて、挿絵の提示部分を動かし、児童の想像力を刺激し、物語のイメージを膨らませるための支援とすることができる。また、本文の読み取りを中心に行いたい場合などには、本文ビューを活用し、叙述を中心に読み取りを行う。言語事項の学習では、筆順アニメーションなどを活用し、筆順、点画の方向、字形などをきちんと押さえることができる。このような特徴のあるデジタル教科書ではあるが、活用するだけで授業が突然に良くなるものでもない。デジタル教科書は、あくまで児童が持つ教科書をサポートするものである。活用する場面や箇所を十分に検討し、授業デザインを行う必要がある。本時においては、教科書の挿絵を大きく拡大提示し、情景のイメージ化を図ったり、挿絵にふきだしをつけてごんの気持ちを考えたり、書き込み機能を使ってごんの気持ちがわかる場所に傍線を引くなどを行い、情景描写や表現の工夫、ごん的心情を深く読み取るための支援としたい。

4 単元の目標

- ・ 場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を、叙述をもとに想像しながら読み取ることができる。
- ・ 物語を読んで、強く心に残っていることを中心に、各自選んだ方法にそって表現したり発表したりすることができる。

5 学習指導計画 単元の構想（全16時間）

- 第1次 文を通読し、感想をまとめて発表する。 1時間
- 第2次 出来事の流れをとらえ、読み深めていきたい課題について話し合う。 2時間
- 第3次 章ごとにごんの気持ちを読み取る。 5時間（本時2/5）
- ・ 一の場面前半を読み、ごんの境遇とくらしぶりを読み取る。
 - ・ 一の場面後半を読み、情景や兵十の様子といたざらをするごんの気持ちを読み取る。
 - ・ **二の場面を読み、ごんの様子と後悔するごんの気持ちを読み取る。（本時）**
 - ・ 三の場面を読み、つぐないを繰り返すごんの様子と気持ちを読み取る。
 - ・ 四・五の場面を読み取り、兵十と加助の会話を聞き、やるせなく思うごんの気持ちを読み取る。
 - ・ 六の場面を読み、兵十の気持ちの変化をつかみ、最後にうなずいたごんの表情やその時の気持ちを読み取る。
- 第4次 自分の取り組みたい学習方法を選択し、グループを作り学習計画を立てる。 6時間
- ・ 本の帯作りコース
 - ・ 読書会コース
 - ・ 音読発表会コース
- 第5次 新美南吉の作品を選んで読み、感想を紹介し合う。 2時間

